

平成 27 年度 全国学力学習状況調査の結果

京都市立西陵中学校

4月 21 日に、本校 3 年生 78 名を対象に実施された「全国学力学習状況調査」について、結果がまとめました。本調査は、国語、数学、理科の3教科のテストと同時に、学校や家庭での過ごし方を問う調査も実施されており、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

【総合結果（国語・数学・理科）】

国語A・B、数学A・B、理科とも平均正答率は全国平均と比較して、ほぼ同等の結果となっています。

3教科とも、説明をする問い合わせを正答した生徒が全国と同等である一方で、無解答率が全国よりも若干多い傾向にあります。



授業や家庭学習、定期テストなど、折に触れる記述に取り組んでいます。今後も取り組み続けていきたいと思います。

【国語】

ほとんど全国平均と同等ですが、その中でも「記述式」の問い合わせ、「古典」分野の正答率が若干低くなっています。



日頃から、授業だけでなく、読書や新聞に親しむよう心がけています。また毎週、新聞記事を読んで記述する課題に取り組んでいます。今後も継続して取り組み、語彙力や表現力を高めていきたいと思います。

【数学】

「数と式」「図形」「資料の活用」は全国と同等です。授業で取り扱わないとすぐに忘れてしまう内容ですが、復習を常に心掛けると、決して難しくはありません。

「関数」の正答率が全国と比較して若干低いです。xとyの関係を式に表すことは、学習している内容と直結しており、イメージできていますが、日常の場面とは結びつきにくく、記述での表現が苦手なようです。

数学の『問題』として捉えながらも、日常生活にどのように関わっているのか、考えてみるとよいでしょう。

【理科】

知識を問う問題についてはよくできますが、応用力を問う問題の正答率が低い傾向が見られます。

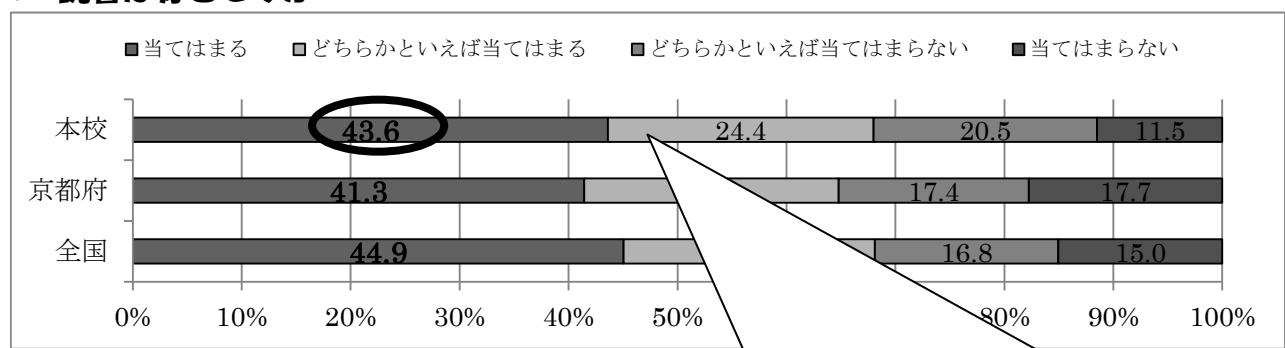


また、生物・地学分野に比べて、物理・化学分野において定着率が低い領域が見られます。

知識の習得にとどまらず、理解を深めるために応用問題や記述問題に、力を入れて学習しましょう。

【生徒質問紙調査より①】

Q：読書は好きですか？

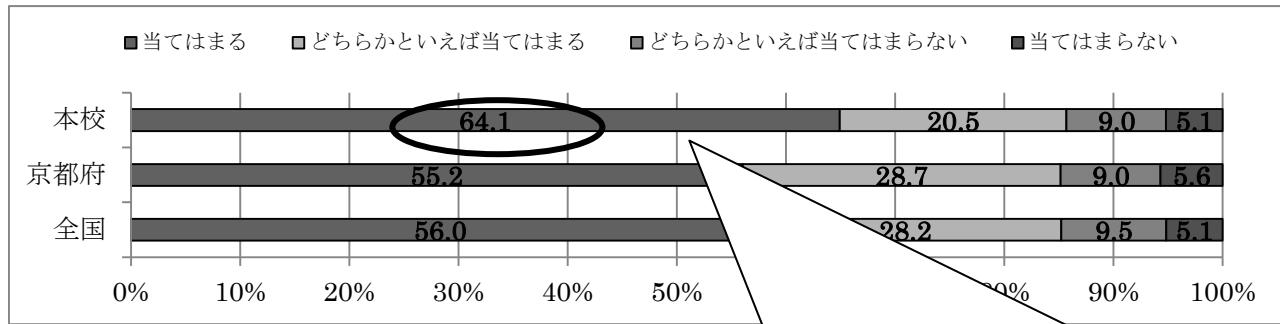


昨年度は「読書が好き」な生徒が少なかったのですが、朝読書を取り入れた今年度は、全国とほぼ同数となり、44%の生徒が「好き」と答えています。

約 10 分間ですが、静かな朝を過ごし本に親しみ、1限目からも落ち着いて学習に取り組めています。本に親しむことはもちろん、問題を読み解く力もついていくと考えています。

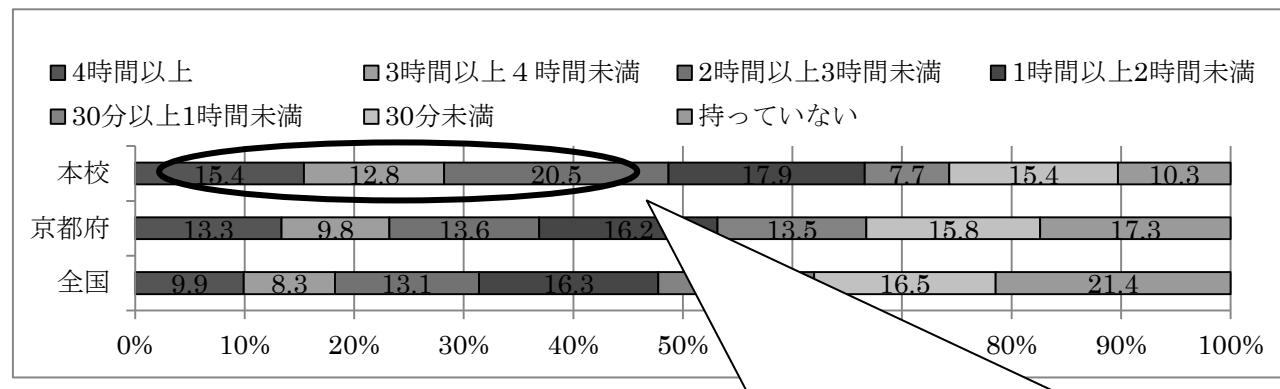
【生徒質問紙調査より②】

Q：学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか？



「学級の仲間と協力してやり遂げ、うれしかったことがある」生徒が全国より多く、65%近い生徒が答えています。修学旅行を成功させた！という思いの表れかもしれません。先日の西陵祭後に聞けば、もっと多くの生徒が感じていることでしょう。行事を通して、生徒が自分たちの成長を実感している数字だと思われます。

Q：平日、携帯電話やスマートフォンをどれくらいの時間使いますか？



携帯電話やスマートフォンの所持率は、全国平均が80%に対して、本校は90%と高く、所持率の高さに伴い、平日の使用時間も、全国平均を大きく超え、2時間以上の使用が50%となっています。長時間の使用により視力の低下や寝不足など生活習慣の乱れ、学力の低下やSNSなどによるトラブルも懸念されます。

【保護者の皆さんへ】

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちのさまざまな力を伸ばしたり、課題を解決していくためのものです。今回の結果が、学力のすべてを表わしているのでも、順位を競うものではありません。

学力は、学校・家庭・地域みんなで見守り、地道な取組の積み重ねにより、高まっていくもので、日々の生活習慣や学習習慣がその基盤となるのです。上記アンケート結果のように、多くの子どもたちが「仲間と協力して行事を成功させること」を経験し、喜びを実感しています。嬉しいときだけでなく、悔しいときにも仲間と肩を抱き合って涙を流す感動的な場面があります。本校の「西陵祭」や「生徒会活動」「部活動」など積極的に意識の高い活動が、子どもたちの学力を高める土台となっていると考えています。

今回の本校の結果をみると、学力は少しずつ伸びてきていますが、課題もあります。そのひとつに「携帯電話・スマートフォンの使用」があります。ご家庭でも一度、見直して頂き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いします。

